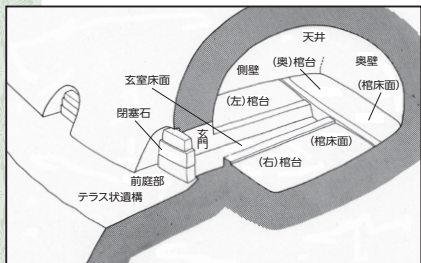


## 関峯崎3号 横穴出土金銅製三尊押出仏 新たに県指定に



▲三尊押出仏



▲横穴の模式図

関峯崎横穴群は、香取市関字峯崎と成田市堀籠字峯崎との行政境に所在する総数100基を超える千葉県北部最大の横穴群です。

横穴は古墳時代後期から8世紀初頭まで営まれた墓制で台地の斜面部に横から穴を掘って墓室をつくったものです。市内には、本例以外に5遺跡が確認されています。

昭和62年、本古墳群のうち5基は発掘調査が実施され、3号横穴の左棺台からは鉄製品とともに金銅製押出仏、左右の棺台から骨片、玄室床面から勾玉がそれぞれ検出されています。これらの出土遺物から7世紀後半以降につくられた横穴と思われる。

押出仏は、薄い金属板を浮き彫りの原型の上に乗せ、木槌などで打ちたたいて型の凹凸を写し取るという技法を用いて作った仏像で、量産が可能なことから7世紀後半には、畿内地方を中心に盛んに作られるようになります。

通常、押出仏は仏像と光背が一体となりますが、本例の場合、中尊と脇侍の様態やパランスから推察すると、元来は別々の型で打ち出したものを切り取り、後にひとつの光背に鋲留めしたものと思われる。

光背の形状や痕跡からすると、木製の台座などに光背下部を差し込んで、生前には被葬者が念持仏として崇拝し、その没後に副葬品として横穴に納められたものと思われる。

本資料は、中央政權と香取の豪族との政治的關係、東国における古代仏教の伝播の様相を物語る文化財として非常に重要な資料であることから、平成26年3月4日に千葉県の有形文化財（考古資料）に指定されました。

現在、いぶき館2階の香取市文化財保存館に展示しています。

問い合わせ  
生涯学習課